

## 2019 年度長洲町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町の農業は、土地利用型農業の水稲・麦・大豆の作付を基本としながら、近年ではミニトマトを中心とする施設園芸野菜や露地野菜の生産も増えてきている。

耕地面積は 675ha（水田 564ha、畑 111ha）で、水田面積 564ha に対して、291ha（約 50%）の基盤整備が完了しており、約 200ha（約 34%）の暗渠排水が近年整備されている。

主食用米の需要が減少していくことが見込まれており、新規需要米等の作物への転換を促進することで、耕作面積の維持を図っていく必要がある。また、麦・大豆の単収が県平均と比較して低い状態であるが、暗渠排水が整備されたこと等により単収の増加が期待される。

現在、担い手については十分確保されている状態であり、農地集積等を通してコスト削減・作業効率の向上を図っていく。また、農家の高齢化による離農数も増えているため、担い手への農地集積等により水田面積の維持を図っていく必要がある。

### 2 作物ごとの取組方針等

町内の約 564ha（不作付地 33.2ha を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、麦、大豆、加工用米、米粉用米、飼料用米を転作作物の主体として位置付け、地域の需要に応じた作物の振興を進め、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

需要に応じた生産を行うため、農業者の経営の観点から、生産目安を基にした主食用米の生産を推進する。また、熊本県の水稲奨励品種である「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」、「くまさんの力」、「あきまさり」、「やまだわら」の栽培を主とし、売れる米作りの推進を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の一つとして、飼料用米を位置付け実需者（JA 熊本経済連等）とのマッチング強化及び生産拡大を図る。

##### イ 米粉用米

今後の新たに取組が進められると予測される米粉用米についても、作付を推進し、需要量に見合う生産量を確保していくため、生産の拡大を図る。

## ウ 新市場開拓用米

多収性品種「やまだわら」の作付けを推進し、業務用米及び輸出用米等の作付け拡大を図り、農家経営の安定と所得の増大を目指す。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦に関して、当町の気候条件及び耕作地条件に適している「シロガネコムギ」「チクゴイズミ」、パン用品種「ミナミノカオリ」での作付けに取り組む。

単収の増加が課題となっており、農業者の所得向上に向けたインセンティブとして、産地交付金を活用し、担い手による収量増加に対して支援を行うことにより、生産性の向上を目指す。

大豆に関して、主に良質多収量品種の「フクユタカ」での作付けに取り組む。

単収の増加が課題となっており、農業者の所得向上に向けたインセンティブとして、産地交付金を活用し、担い手による収量増加に対して支援を行うことにより、生産性の向上を目指す。

さらに、産地交付金を活用し、麦、大豆、飼料作物に対して、二毛作による作付けへの支援を行うことで、振興を図るとともに、水田利用率の向上を目指す。

### (4) 高収益作物（野菜、花き、花木、果樹、その他作物等）

転作水田においては、販売を目的とした野菜等が作付けされている。これまで小規模の水田については、直売所向けの作物の作付けが行われてきたことにより、耕作放棄の発生防止等に非常に大きな役割を果たしてきた。

このようなことから、これまでと同様、産地交付金において園芸作物等への支援を行いながら今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、ミニトマトを中心とする施設園芸作物においても、当町の農業を支える重要な役割を担っているため、併せて支援を行い振興を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	296.9ha 1,558.7t	295.0ha 1,549t	294.0ha 1,544t
飼料用米	0ha	0ha	0ha
米粉用米	0ha	0.3ha	0.5ha
新市場開拓用米	3.5ha	3.8ha	4.1ha
WCS用稲	0ha	0ha	0ha
加工用米	0ha	0ha	0ha
備蓄米	0ha	0ha	0ha
麦	308.6ha	315.0ha	320.0ha
基幹作	145.8ha	142.0ha	144.0ha
二毛作	162.8ha	173.0ha	176.0ha
大豆	43.0ha	47.6ha	48.7ha
基幹作	1.4ha	2.6ha	2.7ha
二毛作	41.6ha	45.0ha	46.0ha
飼料作物	1.5ha	2.0ha	2.0ha
基幹作	1.5ha	2.0ha	1.5ha
二毛作	0ha	0ha	0.5ha
そば	0ha	0ha	0ha
なたね	0ha	0ha	0ha
その他地域振興作物	21.2 ha	24.0ha	25.0ha
野菜	17.6ha	19.0ha	20.0ha
その他 ・たばこ	3.6ha	5.0ha	5.0ha

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 525kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	麦・大豆	担い手収穫加算 （基幹・二毛作）	大豆（取組面積）	6.0ha	(2.7ha) 7.0ha
			大豆（収量）	86.0kg/10a	120.0kg/10a
			麦（取組面積）	132.0ha	(102.0ha) 134.0ha
			麦（収量）	302.0kg/10a	(300.0kg/10a) 302.0kg/10a
2	麦・大豆 飼料作物	二毛作助成（二毛作）	大豆（取組面積）	41.6ha	46.0a
			麦（取組面積）	162.8ha	176.0ha
			飼料作物（取組面積）	0ha	0.5ha
			水田利用率	124.95%	128.09%
3	野菜等	地域振興作物への 助成（基幹）	野菜等（取組面積）	21.2ha	(27.0ha) 25.0ha
4	新市場開拓米 （輸出米）	新市場開拓米 （輸出米）における 多収性品種の取組	新市場開拓米 （取組面積）	3.5ha	(3.6ha) 4.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）